

クラス番号	615	担当教員名	伊藤 文人
テーマ	若者の現在と社会的支援のあり方——ベーシックインカムとソーシャルワーク		
著書・論文 研究課題等	研究課題：ソーシャルワークの価値・倫理・社会理論の国際比較研究 論文：'The Rise and Fall of Professional Social Work in Japan: evolution, devolution and neoliberal turn?' 『現代と文化』123号、「ソーシャルワークと社会正義」『総合社会福祉研究』第32号 <翻訳>ポール・スピッカー／坏洋一監訳『貧困の概念』生活書院（分担翻訳）など		

ゼミナール概要

キーワード：若者、貧困化、ニート、フリーター、引きこもり、ベーシックインカム、ソーシャルワーク

【概要】

みなさんは、現在の日本社会をどのようにとらえていますか？

今日の状況から早急に支援のあり方を考えなければならない領域があります。それは、20代から30代にかけての若者たちです。残念ながら日本社会は将来を担う若い世代を応援しているとは言えません。また、社会保障や社会福祉の仕組みも若い世代を支援していくそれになっていません。それは、若者たちの進学や就業を支援する仕組みの脆弱性とその結果としてフリーターやニート、引きこもりなどが何十万にも達していることにあらわれています。これは日本だけの問題ではなく、広く先進諸国（欧米各国、韓国や台湾）に共通する課題です。

本ゼミでは、日本と世界における若者の置かれた状況を比較検討しながら、若者の自立をどう支援するのか、その中でソーシャルワーカーが果たすべき役割はどのようなものかを考えていきます。欧米では、若者を支援する活動を Youth Work と呼んでいますが、みなさんが専門職に就いた時には、20代から30代の比較的若い世代の抱える困難と向き合うことを意味しています。本ゼミでは、若者たちの社会的支援を考える際のひとつの糸口として、「ベーシックインカム Basic Income: BI」（基本所得）に注目します。BIは、「存在しているすべての人々に、無条件で配分される最低限の所得保障」です。BIには、原則的に支給にあたっての条件がなく、労働や障がいなどを支給要件とする従来の社会保険や生活保護とは異なり、一切の制約がありません。生きていれば、それだけで最低限の必要とされる所得保障が得られるという思想であり、運動です。若者を支援するにあたってBIの存在は限りなく大きくなりました。その可能性から若者の社会的支援のあり方を従来のソーシャルワークの利点と併せて検討していくのがゼミでの学習目標です。

【方法・計画】

ゼミでは、①若者の抱える諸困難の国際比較、②BIの基本構造と運動の現状、③従来のソーシャルワークのあり方とBIとの協働、④フィールドワーク（若者の社会的自立を支える活動拠点への訪問）を柱として学習を進めます。また、同じ問題意識を共有する5大学の学生たちとの合同ゼミ合宿（夏期）も実施します。4年生になったらこうした学習から得られた知見や経験をもとに卒業論文へ取り組んでいき、社会福祉士国家試験受験指導も行います。

卒業旅行では、ソーシャルワークの聖地でもあるイギリスへ行くことも目標にしたいものです。ここでは私のお知り合いの先生方による若者支援の現場訪問も含めていく予定です（お金は貯めないといけません）。

【ゼミ生からメッセージ：伊藤ゼミとはこんなところ（らしい・・・）】

- ①自分の興味あることをとことん追求してよい。調べたことは必ず添削を受けられるので新しい気づきを得られてレポート執筆能力が格段に上がり、自信がつかます！
- ②先生は優しいのでどんな質問にも答えてくれる。私たちを見捨てない！これは財産です。
- ③アクティブな活動大好き！ゼミでやりたいこと（鍋パーティー、BBQなど）は自由に発案・計画実行OK！
- ④イギリス行きを応援してくれます！みんなで海外遠征して先生の知り合いと出会うことも勉強になります！

担当教員からのメッセージ



①ゼミの主体はみなさんです。みなさんのやる気次第で楽しくなります！積極的に学びあい、討論し、他者への配慮と歓待ができる人を歓迎します。②歴代のゼミ生は、公務員を中心にソーシャルワークの現場で活躍している人がいます。そうした先輩方は必ず社会福祉士資格を取得しています。ゼミ生同士で受験勉強することも奨励します。また、先輩との顔合わせ（新旧ゼミ生交流会）は、来年の定期試験明けに実施しますので、連絡先（メールアドレス）は記入しておいてください。③エントリーシートには、若者の置かれた状況に対する自分の考えを中心に、ゼミでどんな勉強や活動をしたいのか、自己アピールをできるだけ書いてくれるとうれしいです。